

## 第19回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成20年1月24日16：00～

開催場所：上野原市 北都留森林組合

[ 司会 ]

知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めさせていただきます県の広聴広報課長、田中と申します。よろしくお願いいたします。

まず最初に横内知事からあいさつをお願いします。

[ 知事 ]

皆さんこんにちは。

今日は北都留森林組合の皆様方、また上野原木材組合の皆様方には、それぞれお忙しい中をこうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。日頃県政の、とりわけ山梨県の森林行政の推進にご支援やご協力をいただいております。心から厚く御礼を申し上げます。

今日は『県政ひざづめ談議』ということですので、ざっくばらんに日頃思うこと、お考えになること、悩み、そんなことをお話をいただきたいというふうに思っております。

木材の需要というものが依然として長期低落傾向にあり、林業も依然として長期低落傾向にあるわけでありましてけれども、しかし他方において地球温暖化対策としての森林の重要性というものが高まってきておりますし、本県の場合には多摩川あるいは相模川の上流地域として東京や神奈川の大都市地域の住民の皆さんに水を供給するという役割を持った森林であります。私は、この上流圏の責任として本県においては森林の整備をしっかりとしていかなければならないという思いを持っているところであります。

皆様方にはそういった森林の整備、保全の仕事を普段していただいているわけでありましてけれども、そういった普段の仕事を通じて思いの丈を今日は色々とお話をいただきたいと思っております。

皆様方のお話に対してお答えできることもあれば、またお答えできないこともあるわけでありましてけれども、いずれにしましても皆様方のお話をこれからの山梨県の森林行政にしっかりと役立てさせていただきたいと、こんなふうに思っております。どうかよろしくお願いいたします。

[ 司会 ]

本日出席しております県と市の担当者を紹介させていただきます。

まず、県の森林環境部で森林計画、それから造林事業などを担当しております岩下森林整備課長です。

それから同じく森林環境部で木材の流通とか担い手対策などを担当しております馬場林業振興課長です。

それから、上野原市の細川建設経済部長です。

本日は上野原市、それから北都留郡内で森林の保全とか木材の活用に携わっている皆様方と『魅力ある森林・林業をめざして』をテーマに意見交換を行っていきたいと思っています。本県面積の78%を占める森林機能発揮のために県産材の販路拡大、それから森林の持つ多面的機能を生かす森づくりを進めていくためにどうすればいいのか、それから林業の担い手である皆様にとって、今後も魅力ある林業としてあり続けるためには何が必要かと、そういった観点で参加者全員で話し合っていきたいと思っています。意見を聞きながら気が付いたことがありましたら何でも結構ですので発言をお願いしたいと思います。

本日いただきました皆様のお考えとか、それからご意見は今後の県政の参考にさせていただきます。

どうぞ発言を何でも結構ですからお願いいたします。

[参加者]

この地域は、先ほど知事さんからもお話がございましたように、小菅村・丹波山村は多摩川を持っておりまして、ここは相模川の上流ということで、都留峠を越えて向こう側とこちら側は大分林業の形態も変わっているような気がいたします。

それで甲府の市場へ色々材料を出すにはちょっと距離が遠過ぎるということで、南部の森林組合が静岡県等を相手にしながら大分健全な経営をしています。北都留の場合には、東京都と神奈川を対象にしながら何か研究していかなければいけないんじゃないかなと。

それから昨年からは建築基準法が厳しくなって、材木の売れ行きが悪いというようなことで、不況から中々脱却できない。

それとおそらくこの辺は林道の整備が遅れておりますので、間伐材を中々現金化することができない。

そういうようなことに対して、今、山で実際に仕事をしている若い人たちがどんなことを考えているか、どんなことを希望しているか、それを今日この席上で知事さんに吸い上げていただいて、一つまた森林組合のバックアップをお願いをしたいと思っています。

[参加者]

北都留森林組合のエリアをよく見ますと山村地域の活性化を図りたいというふうな声が非常に多いです。それにはどうしても新しい産業構造が必要であります。

働く場があれば、自然の中で自分は自分を試してみたいというふうな若者が非常に最近が増えております。自然の豊かな村で自分が生きて、人らしい生き方をしたい、家族を幸せにしたい、あるいは人間らしい生活をしたいという考え。技術と知恵と夢を持って、最近特に上野原とか北都留郡内ではI・Uターンする人が増えていきます。この組合にも約10人ぐらい大学を卒業して東京都あるいは神奈川県の方から来ている方がおり、今日この席にも何人が来ておると思います。

また林業としても、木材の価格が低迷して、コストにならないコストとでもいいでしょうか、そんなことで大変厳しい、また経営状況も非常に苦しい。そんな中で北都留森林組合の職

員は、何とかならないものかという工夫、研究、その他いろんなことをしております。

そこで色々と考えて、森林というのは、やはり住域地域の中で、特に行政、県、市、それから住民ですね、これたちと、あるいは企業が一体となっていかなければ経営というのは難しいんじゃないか。

それゆえにできればNPOなどと森林整備のほうをやって山村地帯を活性化していこうという意見が出ているわけであります。

そこで特に今日知事さんがお見えですので、知事さんが取り上げている、山梨県独自の水源税導入の実現をいたしたいと、こういう項目を私は見たことがあるんです。

水源税というのはどういう税かもっと突っ込んで聞きたいんですけども、私はこれは自然税でもいいだろうし、東京都もしくは神奈川県、要するに下流、その水を皆さん方は飲料水として使っている、だから山梨県自らがそういうふうなものを考えて、県民一体となってそういう水源税なら水源税のようなものを導入し、それから他府県にお願いするというふうなことでいったらどうかと。

以上、お話ししたりお願いしたんですけど、これは森林組合としてお願いしたい。そういうことでございます。よろしく申し上げます。以上です。

#### [ 知事 ]

水源税とか森林整備税の導入ということ、まあこれは大きな検討課題だというふうに思っていますね。

しかし、もう20何県かで森林整備税を導入しておりますけれども、山梨の場合には下流の受益権があるものですから、山梨県民だけが負担するということになるかと片手落ちになりますから、やっぱり下流の東京都とか神奈川県から一定の負担を求めながらやっていかなければいけない。

神奈川県あたりも多少そういう気持ちにはなってますけれども、その辺のところを求めながら同時に水源税というような形で県民にもそういうご負担をお願いして、森林を整備していくということが大事だろうということです。

同時に、ふるさと納税というものが始まりまして、あれは目的としてそういう森林整備ですね、それに充てると。山梨出身で東京にいる人たちが山梨の森のために是非そのようにしてくれ、ということは今これから始めようとしています。大事なことだというふうに思っております。

#### [ 参加者 ]

それに関連しまして、神奈川県の水源税、結局隣の相模原市へ私たちが陳情に行きまして、そして津久井森林組合とも連携をしながら、神奈川はとりあえず水源税でもって5カ年計画で5つの湖を整備していくというんですね。

だから上流の山梨も整備してくれといったら、まず神奈川県を整備してから山梨をやりたいというような話が来ているんですが、神奈川県の方に一緒に仕事をして森林整備をしていただきたいと、こんな一つ後ろ盾をお願いしたいと思えます。

[ 知事 ]

神奈川県知事の松沢さんは、やっぱりそれは神奈川だけでなく山梨の森林整備にもこの水源税を充てるべきだという考え方なんですよ。

今、神奈川県と山梨県で協議会を作って色々議論をしておりますが、おいおいそういうことになっていくというふうに思います。

先ほどお話がありましたが、ずいぶん東京から神奈川から若い方がお出でいただいているというふうに聞いております。

ありがたいことですね。

[ 参加者 ]

うちの場合、大体平成6年頃からどこからでも入ってきて、山梨に越したいという人を入れたんですね。今40代から下で17人ですね。その中の10人ほどは東京とか埼玉とか神奈川の横浜とか、そういう人が来ています。

[ 参加者 ]

彼は海老名に生まれたから、相模川の上流の自分が飲んでいる水を整備したい、森林整備をしたいと言ってきたんですよ。

[ 知事 ]

今あちこちで間伐を中心に仕事をしておられるんですか。

[ 参加者 ]

自分は現場作業ではなく、その前の測量ですとか、あと造林補助金の関係の申請の書類を作ったりしています。

[ 知事 ]

まあかなりこちらの地域は間伐も進んでいると聞きますけどね。

環境公益林は、かなりここでは事業として・・・。

[ 参加者 ]

それはやっています。だから丹波、小菅は大分進んでいます。

[ 知事 ]

丹波、小菅はしかしそうは言っても地形が急峻だから中々大変ですよ。

[ 参加者 ]

あそこは青梅、奥多摩のほうを控えていて足場丸太が大分昔は売れたものですから、すごく密植なんですよ。

だから今抜かないと、間伐しないと、もう手遅れに本当になるなど、そういうところで

すね。

[ 参加者 ]

間伐の話なんですけども、今確かに丸太で出したらば市場で叩かれちゃって、もうどうしようもない。そしてその間伐材をどうやって活用するかということで、つい最近コンクリートの壁に腰板をやったんですよ。そうしますとね、非常に温かみが出るんですよ。

官公庁、それから学校なんかもこういうことができるんですけど、ただし残念ながらこの板を切る、いわゆる帯ノコか、帯ノコギリなるものがないんですよ。だからこういったものが、活性化の中で森林組合に置いていただければ、皆さんが使って、そしてこういった間伐材がどんどん利用できる。そういうことでね、一つのアイデアじゃないかなと思って、今日は是非そんなことを話をしたいなと。

[ 知事 ]

東部拠点にはあるんでしょう、もちろん。

[ 参加者 ]

今お話があったように、甲斐東部製材協同組合にはこのようなものを製品にする能力は十分備えております。ですから色々な面で皆さんに周知徹底されていない部分もあります。

東部の木材団地の製材工場といたしましては特に県産材、地元の材、100%に近い山梨県材で製品生産させていただいているんですけども、先般もちょっとウッドマイレージという、その地域の木を地域で使うということで、結局どっかから持ってくることはそれだけCO<sub>2</sub>も出したり、環境にも非常によくないということがございまして、その地域の同じお水を飲んで、また同じ空気を吸って、同じ陽をあびた木が地域で使えることが一番いいだろうという話の中で、遠くから持ってくるより、もちろん特に海外から持ってくるよりは非常に環境にもいいということと、それと先ほど言われたようにやはりコンクリートの中にいるよりは、今の子どもさんは特にそうなんですけど、木材を使った中にいるということは心のことを考えましたら非常にいい環境じゃないかということで、特に東部としましては非常に苦戦をしているんですけど、今県の森林環境部の皆様方とか、いろんな方々から色々ご指導をいただきながら一生懸命がんばっております。

また地域の方にも是非とも活用していただいて、そういう機会がございましたら是非とも使っていただきたいと思います。

それともう一つは、やはり林家の方とか森林組合の方たちがやっぱり潤っていかねければ、私たち製材もそうですけれども、やはり建築から見てもみんなが潤っていかねければ、中々これはつなげていけないと思います。みんながいい環境の中でやっぱりつないでいくと言うのは大事なことだと思いますし、FSCも山梨県で取得していただいておりますので、その辺もこれからもがんばっていきたいと考えております。

[ 知事 ]

今、材はどこから持ってきておられるんですか。

[参加者]

東部には森林組合さんが力を入れてやっていただいています。産地形成事業として市場事業をしております。そこによく県有林の木とか、あと地元の林家の方が持ってくる木とか、組合員さんが持ってくる木とか、色々なもので市を毎月2回やっているんですけども、それを製材協同組合は買わせていただいたり、それで足りない場合には他に行ったりしています。

[知事]

そして工務店さんなんかはその材を供給しておられるんですね。

[参加者]

そうです。私たちも小さいながら工務店もやっておりますので、うちのところにも使ったり、あと八王子のほうに出したりしているんですが・・・。ただ大量生産、大量販売というのを今余り考えておりませんで、やっぱり地域の材をもっと大事に売っていかうということで、そんなような考えもしております。

ただ単に薄利多売でいっぱい生産してどんどんどんどん売るだけじゃなくて、もうちょっと付加価値を付けて売ろうという、そんなような気持ちでやっております。

[知事]

こちらのほうは材そのものはそんなには出していないようですね。南部辺りに行くとずいぶんスギ、ヒノキを出して静岡のほうから買いに来て、あれが富士川材じゃなくて天竜材だとか何とか言われて、木曾桧だなんて言われて売られているようですが・・・。

[参加者]

見学に行きましたらね、沼津の辺の車がやたら行ったり来たりするんですね。だから静岡がどうも販路らしいんですね。

[知事]

南部の森林組合はもう入札の時なんかはずいぶん人が来ていますね。

[参加者]

それで結局1時間ぐらいの所がいいんじゃないかと。そうするとちょうどここから1時間範囲内というと中々難しいんですね。だから結局1時間ぐらいだと相模原辺りですね。

[知事]

けどもすぐ近くに八王子だ、相模原があるから、まあ消費市場はすぐ近くにあることはあるんですがね。

[ 参加者 ]

山から出すのが大変なんですね、やっぱりね。

だから製材所の施設に持って行って製品にすればいいんですけども、それをすると赤字になっちゃう。

[ 知事 ]

若い皆さんはいかがですか。

[ 参加者 ]

今、森林組合で作業道の開設の係ということで、やらせていただいているんですけども、作業道というのは簡単に山の中に入れるような道なんですけども、材を出す、労働力を運ぶ、あと作りようによっては治山の意味も十分含んでいる、そういった道の開設を今一生懸命、県のご協力というかご指導でやらせていただいているんです。

今補助金という形でメーター5千円前後いただいているんですが、こっちは山は急峻な所が多いんですね。そうしますともう丸太組という工法で作っていきますと、どうしても場所によってはコストが掛かり過ぎてしまう。そういうところが全体の70%ありまして、できましたらまたお金の話になってしまうんですが、もう少し援助いただければと思います。

[ 知事 ]

メーター5千円というのは補助率半分ということですか。

[ 森林整備課長 ]

今作業路を作る場合は所有者負担3割ちょっとです。

[ 参加者 ]

山から木を出すのに、これまでの架線を張って集材するという方法でやるとどうしても低コストで山から木が出せない。

今、いろんな方々の声とか聞いて、色々我々も勉強しているんですけど、今一番安く山から材を出すためには道を付けて、それで木を出していく方法が一番だろうということで、今それにシフトし始めているんですけどね。そのあとわずかのところでちょっと苦しんでいるというのが今この組合の実態でして、そこを少し・・・。

[ 知事 ]

わずかというとの辺ですか。

[ 参加者 ]

もうほんの、もう1割とか、1割、2割の支援をしていただければそういう・・・。

[ 知事 ]

コストが合う状態になるということですか、そうですか。

[ 参加者 ]

森林組合も厳しい状況で、例えば山から木を出すには重機が必要なんですけども、今から1千万、2千万する機械を買うというのは中々できない。

そこでレンタルをしながら出していると、やっぱりレンタルコストは中々カバーできない。30人を超える職員を抱えている状況なんですけど、もう一步のところちょっと足踏みしているのが今現状というところで、その辺で色々ご相談させていただければありがたいなというところであります。

[ 参加者 ]

環境公益林整備支援事業について検討してほしいことがあるんですけど、この事業というのは公益機能を回復させるために間伐をする事業なんですけど、国と県で補助をしてくれまして、地主の代わりに県がまたその負担分を出してくれているんですけど、事業量、予算は増えているんですけど、それに伴って標準単価のほうは段々毎年のように下がっていつちゃっているんです。

そうするとやることは増えていて、標準単価が下がりますので、ちょっと厳しくなっているんで、その点の県の標準単価というものをもう一度見直しというか、検討をしてもらいたいんですよ。

[ 森林整備課長 ]

標準単価23万ちょっとぐらいじゃないかと思うんですけど、その環境公益林を整備する状況によって、山の状況によって、例えばたくさん間伐しなければならんというような所と、まあ1回ぐらい間伐してやって、そんなに切る必要はないというようなところも山によって、その実情によって多少は違う部分もあります。その辺については山の状況に応じた単価でやっていくということを考えております。

また例えば条件、こういう所の山じゃできるけども、こういう所の山じゃできないとか、この事業の採択になるならんというようなその問題も多分あると思います。それらについても皆さんのご意見を聞きながら適正な内容にしていきたいというふうに考えていますので、また色々ご意見をお寄せ下さい。

[ 知事 ]

組合長に「これじゃ無理です。これは県に言っておいて下さい。」と言えば・・・。(笑い)

[ 参加者 ]

それと県でもお忙しいでしょうけど、補助金のついた山の仕事が終わったら、できれば



なるべく早く検査をしていただいて、これを促してもらえれば決算がやりいいですがね。

[ 参加者 ]

今、約30人の職員で年間300、400ヘクタールの間伐を毎年実施してきているんですが、事業費で約2億ぐらいの事業になります。そうしますと当然毎月毎月我々給料を職員はいただいているんですけど、それを全部組合で立替えというような形で今やっております。

当然借入をしながら回していかなければならないということで、今一番、そういう資金繰りのところが、現実問題としてかなりもう苦しくなっているというのがあります。そこを、もちろん林務の方々とも色々今ご相談させていただいてるんですけども。

できれば森林組合なんかの育成のために森林組合に県から出資していただいて、出資金という形で・・・。

[ 知事 ]

それで資金繰りができれば一番いいですよ。

いざ何かあった時に、全くみんな不安ですよ。そうですか。

[ 参加者 ]

こちらの女性の方なんですけど、森林環境教育の活動を上野原で実際にやっています、今一人で西原に住んでいるんです。

[ 参加者 ]

さんは、ご出身はどちらでしたっけ。

[ 参加者 ]

埼玉です。上野原の大学に入って、ここから車で30分ぐらい山のほうに向かう西原という集落に一人暮らしをさせてもらっているんです。

大学の頃から環境教育という分野にすごく興味があって、いまだ活動もしているんですが、知事さんの政策の中に環境教育にこれから力を入れるという文言がありますね。その中に今森林組合でやっているような森林環境教育という分野を是非お考えに入れてもらいたいと思います。

[ 知事 ]

なるほどね。具体的に例えばどのようなことですか。子どもたちの総合的な学習の時間を利用して森林のそういう作業みたいなものを実際体験させるとか、そういうことですか。

[ 参加者 ]

間伐とか枝打ち体験、あとそれだけではなく森林がある場所の集落の人たちとの交流も

一緒にやったり、お話を聞いたりとか、そういうことも行ってるんですけど。

今、組合には東京のほうから中学生とかが来てくれているんですが、余り県内の子どもたちが来る機会がなくて、そういう機会をもっと、設けていただけたらなというふうに思っています。

[参加者]

学校の先生方とお話しますと、教育委員会には予算がないんだという話をされちゃいまして、中々子どもたちを遠足のように山に連れてきて森の体験をさせたりする、やらせてやりたいんだけどもそういうのが中々難しいんだと、よくおっしゃるものですからね。

是非これだけ山梨という森がある所ですので、子どもたちが森とふれあう機会というのをたくさん作っていただきたいなと。私たちいつでも受け入れしていきたいと思っていますので。

[知事]

農業の体験教育というのがあるけど森林の体験教育というのも考えてみないとですね。

[林業振興課長]

色々プログラムもあるんですけども・・・

[参加者]

私は、作業班で毎日間伐とかやっております。

今年の上半期に、森林ボランティアを補助金をいただいてやったんですね。

補助金が切れちゃったんで、今は桂川、相模川流域協議会に、間伐とか山の手入れをするボランティアクラブを作れないかということでやっています。

募集すれば遠路はるばる千葉から、チェーンソーで本格的にやらせてくれるところというのは中々ないらしくて来てくれるんですよ。

逆に地元の人に最初来てほしいというので私の考えで最初7時半から集合とか言って本格的にやろうとしたんですけど、なぜか知らないんですけど地元の方は逆に山に関心がない。

その何かちょっとおかしいんですけどね、山に何で関心が皆ないのかなと。

ライフスタイルが変わってしまっって、価値観をこっちに移してもらいたいんですけど、

お金、お金でいってしまっって、お金じゃないほかの価値観を持ってもらうにはどうしたらいいんだろうというのが、これが一番の課題だと思います。

[参加者]

若者に山に関心を持たせるにはどうするか、今話に出たんですけども、私どものところにある源流大学、それは学生がどんどん都会から来ます。

そして都会から来て、組合や小菅の人達が立ち合っってそしてやると非常に面白くて、楽しくて、そして必ず2回、3回と来るんです。

私たちが3年になるんですけど、あと3年たつとその人たちが必ず鮭じゃないけど帰っ

てくる、山へ戻ってくる、そういうことを感じます。

女性も多いんです。だからそういうものの体験というようなものを重視していくと、面白い結果が出るじゃないかなと。

[ 知事 ]

小菅の場合にはいろんな若い人たちが大勢入ってきますね。

[ 参加者 ]

2千人から今度3千人は来ます。その3千人の人たちがみんな山の仕事に入ります。そして森林組合などから枝打ちから何からみんな教わりながらそういう仕事をしていくわけですよ。

だからああいうことはこれから山へ関心を向けるのにはいいことじゃないかなと。だから上野原も同じことができるわけですよ。

[ 参加者 ]

今の話の中で、地元の小中学生にこういう体験教室を進めてもらえばありがたいと思います。そうすると今の悩みもなくなると思うんですよ。

[ 知事 ]

そうですね。やっぱり教育が基本でしょうね。やっぱりまだ頭脳が若い、その柔らかい時にきちっとそういうことを教えておくことでしょね。

[ 参加者 ]

柵原の少年自然の里、あの辺にも来る場合に、森林組合から一つ職員を派遣をしてくれませんかというような話がたまにはあるんですよ。

[ 知事 ]

少年自然の家はかなり人は来るんですか。

[ 参加者 ]

結構使っていますね。あそこを使いながら私らも教えに行くというケースが多いです。

[ 知事 ]

いや、分かりました。森林環境教育というのは大事ですね。

[ 参加者 ]

このペレットは、私どもの小菅事業所で出たオガ粉を最近今まで捨てていたものを固めたものなんです。

一日機械をレンタルで借りてきまして実際にやってみたらうまくできた。そして燃料

としても使える。じゃあいざ森林組合で導入しよう、生産を始めようということですが、1,500万、2千万掛かるといったら理事さんたちが「ちょっと待て」ということで今ストップしてしまっているんです。

実は小菅の湯という温泉があるんですけども、そこではボイラーを切り替えてこのペレットに変えようじゃないかという盛り上がりがあるんです。是非地元で生産して、地元で使うということを実現したいんですが、作るほうがちょっと今苦しくて、今のところ長野県か埼玉県から燃料を買ってくるしかないだろうということで、今そんな話で動き始めちゃっているんですが・・・

[ 知事 ]

これは機械が結構高いんですか。

[ 参加者 ]

高いです。今のところ県の上乗せがないんですね。

国の補助金が10分の4まで、10分の6は自分たちで持てということで、今いかんともしがたくて苦しんでいるところなんです。是非山梨県ではまだ作っている所がないものですからね。これをまず作って山の木を動かしていくということを地産地消で実現していきたいというのがありまして・・・。

[ 参加者 ]

その作るのを若者、この人たちがやったら日当1万5千も2万も払わなければならないんで、とてもじゃないけど採算が合わないです。

ところが丹波や小菅には、お年寄りが、そういう方たちが少し安く何でも協力できる。そうすると採算が合うじゃないかなと。ただしペレットを作る物がなければ。

[ 参加者 ]

私は、今の話のように色々な仕事を退いて、楽しみに色々作っているんですよ。そういう人たちが暇があるんですよ、毎日じゃないんでね。暇があるからそういう人たちが山に行く、まだまだ若い人には負けないぐらいの人が。そういう人たちがやれば結構できるんじゃないかなと思います。

できあがった物を一つか二つ知事さんに・・・。木帯ってかんな屑というやつですね。あれで色々な物を編んで、それで作った物できれいな物がいっぱいあるんですよ。少し持ってくればよかったな(笑い)。

[ 知事 ]

ペレットを作る機械だとか工作機械だとか、そういうようなものがあればいろんなことができるという・・・。

[ 参加者 ]

あればやる人はいます。

[ 知事 ]

そうですか。

[ 林業振興課長 ]

まあ色々補助金もありますが融資制度もあります。あれば便利なんですけど、普段使わないような機械をどかっと買ったところで、それはそれでまた維持管理費も大変になります。

まだ機械が空いている所もありますし、毎日どうやったら一番安いかということと、具体的にするのでしたら、やっぱりちゃんとしっかり考えていただければいろんな方法で支援はできるというふうには考えています。

[ 知事 ]

小菅の湯があるから、これを作って小菅の湯に使ってもらえばいいじゃないでしょうかね。

小菅の湯はディーゼルか何かで沸かしているんでしょうけど、これ使えますか。

[ 参加者 ]

ボイラーは15年も使ってきました、今切り替える時期にちょうど来ていまして、このタイミングでしたらうまくいけばペレットボイラーに切り替えることができるということで、今検討に入っています。

[ 知事 ]

ペレット製造機を買おうというわけですね。

こういうものは高いですかね。見本が県民の日にありましたっけ。

[ 林業振興課長 ]

はい、ございます。あれは民間の業者が出したんですね。

要するに使い道がある程度ないと、余計に作っても使うところがないと中々ということもあるんで、県内でも結構いろんなところで計画はされているのはあるようですね。

[ 参加者 ]

奥さんかだれか来ると言ったけどだれも来ていないの。

というのは旦那さんがよそから山梨に来る場合にも奥さんの協力がなきゃ来られないんですよ。そういう人たちの話も今日聞こうじゃないかなとって連絡したんですが、来なかったんです。

[ 知事 ]

やっぱり皆さんは森が好きなんですね。そういう仕事が好きなんでしょうね。心強いこ

とですね、本当に。

[ 参加者 ]

我々はもう本当に好きな仕事に就かせていただいて毎日ありがたいんですが、やっぱり家族というのは子どもがいれば教育の問題だったり、病院の問題だったりというのはやっぱり心配なことなんです。精神的にやはり実際田舎に住んでみるとやはりまだまだ子どもが病気になった時に東京の病院に連れていかなければいけないとかというのは今現実問題としてやはり一つありますよね。それが一つ一つ少しでも改善してもらえれば、もっともって家族と一緒に移り住むことができるじゃないかなと思います。

[ 参加者 ]

今森林組合の経営の中ではほとんどが手数料何パーセントということで森林組合の儲けがあるんです。それ以上は儲けちゃいけないというような形ですからね。

そうしますとやっぱり現場で仕事をしている人たちのボーナスということになると非常に大変なんです。今はそのボーナス制度の中身が厳しくて減ったんです。これは中で仕事をしている時はだめだとか、色々制約が出てきましてね、そんなことになったんです。

できれば、仕事で現場をやっていても事務員の専門の人と同じようにボーナスがいただけるというふうにしていただければありがたいと思うんですよ。

[ 知事 ]

手数料の積算の仕方ということですね。

[ 参加者 ]

それは森林組合の儲けの部分という形で、それ以上儲けちゃいけないだよというのが森林組合の形ですから。

[ 知事 ]

ほかにももちろんサイドビジネスはやろうと思えばできるわけでしょう、こういうものを売ったりとか。

[ 参加者 ]

そうですね。本業以外のものです。

[ 知事 ]

まあしかし、こういうもので相当な利益を上げるというのも大変ですわね。

[ 参加者 ]

そうですね。本業以外のことで何かやろうかなということ、もうそれは民間の人たちがす

ぐもう始めていますので、そういうケースが多いですね。

[ 知事 ]

そうですか。

[ 参加者 ]

森林組合で現場のほうをしています。

山のほうの地方の活性化も含めまして、現場に向かうのに車で移動するんですが、県道が特に狭くて、通勤時間帯とかにぶつくとかなり狭くてカーブとかで冷っしたりする確率が高いんですよ。林道に入ってしまうとそんな少ないんですけど、やっぱり交通のアクセスとか・・・。

[ 知事 ]

それは上野原丹波山線ですか。

分かりました。やはり、西原の辺りはまだかなり未改良区が多いですかね。

[ 参加者 ]

どちらかというと柵原のほうが狭い所が多いです。

[ 参加者 ]

小学校、中学がある所までは広がっていいんですね。あの辺からちょっとカーブがあったり、狭い所があるんです。それでまた西原の初戸まで行くとまたよくなるんですよ。その手前が悪いんですね。

[ 参加者 ]

そうですね、5箇所ぐらい、本当にきゅっと狭くなっている所があるんです。それは土地所有者の人に話をしてかなり内諾をいただいています、もうあとはやっていただければありがたいなと思っています。5箇所ぐらいですね、ちょっと狭い。

[ 知事 ]

分かりました。これはもう必ずやらなきゃいかん所ですからね。

小菅とか丹波の方は鹿の食害がうんと多いという話ですがどうですか。

[ 参加者 ]

すごいです。奥多摩から追われた鹿がものすごいんですよ。丹波はすごいですね。

[ 知事 ]

これもまた何とかしたいですね。

[ 参加者 ]

あれはもう何とか、本当に何とか手を打たないと、大事なドウダンツツジの、こんな百年以上もたっているようなのが本当に皮を剥かれてすごいですね。

[ 知事 ]

三窪高原のドウダンが何かなくなっちゃたですね、甲州の市長さんが言っていましたけど。

奥多摩から来るんですかね。

[ 参加者 ]

そうですね。まあ山梨でも何とかしないと。あれ変な病気も持ってくるし、それからヒルも増えるんですね。

[ 知事 ]

ヒルはどうですか。あのヒルは丹沢のほうがえらい多くて神奈川の知事がえらい困っていて。

[ 参加者 ]

丹沢のやつがこっちに移ったんですよ、奥多摩へ。それでそれが段々どうも上に上がっているような感じです。要注意。

[ 知事 ]

神奈川が悩んでいますね、丹沢の辺りがね。そうですね、色々まああるんですね。

[ 参加者 ]

また時間がありましたらリュックをしょって今度一緒に来ていただきたいなと。(笑い)

[ 知事 ]

そうですね。

[ 司会 ]

それでは、時間も経過しておりますから、知事に一言最後をお願いします。

[ 知事 ]

色々皆様方から悩みやら課題やら伺いまして、本当に参考になりました。ありがとうございました。まあ県としても森林の整備をやらなきゃいかんことがたくさんあるなという感じがしております。

しかし、この森林の整備の問題はこれからますます大きな課題になってくるだろうというふうに思っていて、皆様方にまたお願いをしなければならん、また皆様方に働いてい



ただかなきゃならない課題が大変多いわけでありませう。

とりわけ他県から若い有能な皆さんがお出でいただいて、こんな心強いことはないというふうに思っております。こういう若い方が本当に生きがいを持って働いていただけるような、そういう森林整備を進めていかなきゃならないなと、改めて私どもは感じたところでもあります。

今日は皆さん本当に貴重なお話をいただきましてありがとうございました。また色々お気づきの点がありましたら、どうぞ遠慮なく言っていただければ、まあ色々そういう単価の問題のところも、それでもしょうがないと思わずに言っていただければ改善できることは幾らでもあると思いますから。一つ県政というのは県民の皆さんのためにあるものですから遠慮なくおっしゃっていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

どうも今日は皆さんありがとうございました。(一同拍手)